２０１８年（平成３０年）７月１１日　水曜日
東奥日報　２３面　掲載

第100回 全国高校野球 青森大会

第２日

第１００回全国高校野球選手権記念青森大会は第2日の10日、４球場で1回戦12試合を行った。明の星は八戸水を8―3で破り、創部4年目で夏の大会初勝利を挙げた。七戸はエースが体調不良で途中降板するアクシデントに見舞われたが、5―2で青森東を退け、東奥学園は第5シードの百石を8―4で撃破した。青森北は連合チームで臨んだ三戸・田子を、野辺地西は青森工、青森山田は五戸、八戸工は松風塾、八戸西は青森南、青森商は八戸商を、それぞれコールドで下した。弘前実、三沢、大湊の実力校も、それぞれ五所農林、十和田工、聖ウルスラに勝ち2回戦に進んだ。大会第3日の11日は4球場で1回戦11試合を行う。

（本紙取材班）

野辺西 着実加点 青工打線勢いなく

▽1回戦（青森市営）

青森工	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
野辺地西	0	0	1	1	2	1	2×	0	7	0

（七回コールド）

（青）田中、佐々木、上町、今村―木村
（野）菅野―白石健
▽三塁打　桧山（野）▽二塁打　桧山、坂本（野）

【評】野辺地西は三回、安打と失策で出塁した走者を犠打で進め一死二、三塁とし、細井の犠飛で先取点を奪った。四回以降も失策や四球で出た走者を確実に得点圏に進め、単打などで効率的に加点。七回まで毎回得点でコールド勝ちした。

【青森工―野辺地西】７回を無失点に抑えた野辺地西の先発・菅野＝青森市営

青森工は、野辺地西の先発菅野に五回まで無安打。六回に連続安打で好機をつくったが、後続を抑えられ万事休した。

2年菅野 抜群の制球

○…球場に到着したバスを降りてから、寺嶋監督に先発を告げられたという2年生の菅野。「準備はできていたので驚きはなかった。3年生を楽にさせたいと思った」と振り返る。

落ち着いたマウンドさばきで打たせて取る投球を徹底。「（捕手の）白石健先輩のミットをめがけて投げた」と、自慢の制球力で青森工打線を六回一死まで無安打に抑えた。不運な当たりで無安打投球を逃し「ちょっとがっかり」と苦笑したが「ストライク先行で投げられたことがよかった」と強調。「これで満足せず自分らしい投球をした い」と次戦を見据えた。

【野辺地西】

	打	安	点	振	球
⑧ 佐々木廉③	3	2	1	1	0
浜 健③	0	0	0	0	0
④ 金 館③	2	2	0	1	0
②⑦ 白石健③	3	2	1	2	0
⑤ 本 井②③	3	3	0	1	0
⑥ 坂細田②③	3	3	1	0	0
⑨ 桧沢山②③	4	2	0	3	0
③ 菅野②	2	2	1	0	0
① 佐々木駿②	2	1	0	1	0
H 細井②	0	0	0	0	0
R 越①	0	0	0	0	0
犠盗失併残					
5 2 0 0 1 3	回	24	10	6	0	9	失
投 菅野	手	7	2	6	3	0	2	0	自

東奥日報社提供
この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです